

VIII 各公園の民間活力導入の基本的な考え方とイメージ

各公園における民間活力導入方針とイメージを次頁以降に示す。個票の概要は次のとおりである。

VIII-1 「真駒内公園」における民間活力導入の基本的な考え方イメージ

1 公園の現状と課題

・昭和47年には札幌オリンピック冬季大会が開催された公園で、46haある広大な緑地では幅広い世代の憩いの場として、散策や軽スポーツ、ハイキングなど、四季を問わず利用されている。

(1) 公園の概要

所在地	札幌市南区真駒内公園1-1
公園種別	広域公園
面積	84.7ha
主な施設	屋内競技場、屋外競技場
供用開始	昭和50年8月

(2) 利用目的

利用目的	競技場利用、散策、軽スポーツ、ハイキング
利用形態	各種競技の団体利用、個人

(3) 年間利用者数(千人)

(4) 公園の課題

- 公園周辺に売店や飲食店がないため、競技場利用者の利便性向上のため、これらのサービス施設が必要。
- 遊具が少なく、子育て世帯の利用が少ない。

2 民間活力導入の基本的な考え方

【目指す公園像】 整備理念は「環境の保全と育成・人と自然の共生」

市街地の中であって、豊かで多彩な自然を感じることができる空間であることから、この空間においてゆっくりとした時間を過ごせる飲食機能の導入を検討する。

(3)

【求める機能】 ①休憩場所となる飲食機能 ②軽食を購入できる売店

【民間活力導入時の留意点】

- 用途地域により建築できる建物に制限があるので注意が必要。
- エリアA、B：第一種低層住居、エリアC：第一種中高層住居

3 民間活力導入による事業イメージ

事業イメージ

- ①飲食機能：軽スポーツに休憩できるカフェ、レストラン
- ②売店：軽食を販売するコンビニエンスストア、スポーツ用品

真駒内セキスイハイムアリーナ

コンサート、イベント等で使われる多目的屋内競技場
収容人員：17,324人
延床面積：18,890㎡
コンサート利用者：H29～R1 平均約8万人/年

4 民間活力導入手法

導入機能	活用できる手法	想定エリア
①飲食機能	Park-PFI、設置管理許可制度	A、B、C
②売店	Park-PFI、設置管理許可制度	A、B、C

- (1) 公園の現状と課題、概要、利用目的及び年間利用者数の推移
- (2) 公園個別の課題
- (3) 民間活力導入の基本的な考え方（「目指す公園像」「求める機能」）
- (4) 民間活力導入による事業イメージ
- (5) 民間活用導入の想定エリア
- (6) 民間活力導入手法（「導入機能」「活用できる主な手法」「想定エリア」）

VIII-1 「真駒内公園」における民間活力導入の基本的な考え方イメージ

1 公園の現状と課題

・昭和47年には札幌オリンピック冬季大会が開催された公園で、46haある広大な緑地では幅広い世代の憩いの場として、散歩や軽スポーツ、ハイキングなど、四季を問わず利用されている。

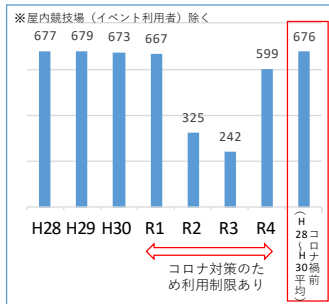
(1) 公園の概要

所在地	札幌市南区真駒内公園1-1
公園種別	広域公園
面積	84.7ha
主な施設	屋内競技場、屋外競技場
供用開始	昭和50年8月

(2) 利用目的

利用目的	競技場利用、散歩、軽スポーツ、ハイキング
利用形態	各種競技の団体利用、個人

(3) 年間利用者数(千人)



【公園の課題】

- ・公園周辺に売店や飲食店がないため、競技場利用者の利便性向上のため、これらのサービス施設が必要。
- ・子育て世帯の利用が少ない。

2 民間活力導入の基本的な考え方

【目指す公園像】 整備理念は「環境の保全と育成・人と自然の共生」

市街地の中にあって、豊かで多彩な自然を感じることができる空間であることから、この空間においてゆっくりとした時間を過ごせる飲食機能の導入を検討する。

【求める機能】 ①休憩場所となる飲食機能 ②軽食を購入できる売店

【民間活力導入時の留意点】

- ・用途地域により建築できる建物に制限があるので注意が必要。
- ・エリアA、B：第一種低層住居専用地域、エリアC：第一種中高層住居専用地域

3 民間活力導入による対応とイメージ

事業イメージ(案)

- ①飲食機能：軽スポーツ後に休憩できるカフェ、レストラン
- ②売店：軽食を販売するコンビニエンスストア、スポーツ用品



4 想定エリア

エリア	現地の状況
A	正門付近に位置し、五輪通りに面しており交通量が多い。屋外競技場の駐車場も比較的近い。(第一種低層住居専用地域)
B	現況は平坦で、まとまった土地が確保でき、付近には駐車場がある。(第一種低層住居専用地域)
C	屋内競技場に近接していることから、コンサート等の開催により、相当数の利用が見込まれる。(第一種中高層住居専用地域)

VIII-2 「北海道子どもの国」における民間活力導入の基本的な考え方イメージ

1 公園の現状と課題

・札幌市と旭川市の間にあり、北海道縦貫自動車道砂川S・Aに隣接している「砂川ハイウェイオアシス館」のほか、世界の七不思議をテーマとした「ふしぎの森」やユニバーサル対応滑り台がある「ヤッホーの森」など様々な遊び施設が満載の公園。

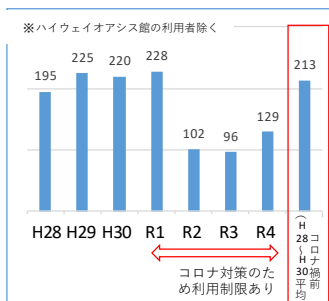
(1) 公園の概要

所在地	砂川市北光401番地1
公園種別	広域公園
面積	232.5ha
主な施設	ハイウェイオアシス館、屋内・屋外遊具、キャンプ場
供用開始	昭和53年4月

(2) 利用目的

利用目的	散歩、キャンプ、屋内遊具、屋外遊具
利用形態	家族連れ、高速道路利用者

(3) 年間利用者数(千人)



【公園の課題】

- ・来園者の満足度の向上のため、休憩、リラックスができる施設が必要
- ・高速道路利用者の一時休憩にとどまり、公園の利用につながっていない

2 民間活力導入の基本的な考え方

【目指す公園像】 自然に親しみながら児童の夢と希望を育む場

高速道路に隣接している立地を活かして、高速道路利用者が、豊かな緑の中で、屋外遊具の利用や、キャンプをした家族連れのリフレッシュ効果を高める、休養、休息ができる温浴施設の導入を検討する。

【求める機能】 ①公園を利用した後にくつろげる温浴施設 ②高速道路利用者が休養・休息のとれる宿泊施設

【民間活力導入時の留意点】

- ・源泉の確保

3 民間活力導入による対応とイメージ

事業イメージ(案)

- ①温浴施設：公園利用者及び高速道路利用者を対象とした入浴施設
- ②宿泊施設：オートキャンプ場やグランピング施設



4 想定エリア

エリア	現地の状況
A	ハイウェイオアシスの駐車場に隣接している。ハイウェイオアシス利用者及び公園利用者のアクセスがよい。

VIII-3 「野幌総合運動公園」における民間活力導入の基本的な考え方イメージ

1 公園の現状と課題

・平成元年に開催された第44回国民体育大会（はまなす国体）の主会場として建設が進められた。野幌森林公園に隣接する緑豊かな自然環境の中にハイレベルな競技施設が配され、全国、全道規模の大会が開催されるなど、スポーツの拠点となっている。

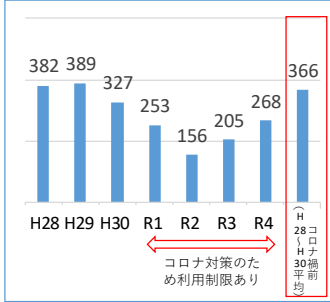
(1) 公園の概要

所在地	江別市西野幌481番地
公園種別	広域公園
面積	64.1ha
主な施設	総合体育館、各種運動施設
供用開始	昭和60年7月

(2) 利用目的

利用目的	競技スポーツ
利用形態	競技者

(3) 年間利用者数（千人）



【公園の課題】

- ・競技者の満足度向上のため、設備の整ったトレーニングルームが必要
- ・供用開始後、期間が経過しており、合宿所施設の魅力度が低下してきている

2 民間活力導入の基本的な考え方

【目指す公園像】 競技大会はもちろん、個人でも各種スポーツが楽しめる道内アマチュアスポーツの拠点

総合体育館を始め、陸上競技会、硬式野球場、ラグビー場など、様々な施設が設置されており、競技者の利便性を向上させる、トレーニングルームの設置や合宿所の更新、拡充を検討する。

【求める機能】

- ①競技者、個人利用者向けの本格的トレーニングルーム
- ②合宿利用者の利便性の向上

【民間活力導入時の留意点】

- ・公式球場内に設置されている既存施設（合宿所）との調整が必要である。

3 民間活力導入による対応とイメージ

事業イメージ（案）

- ①トレーニングルーム：競技者及び合宿利用者も満足できる本格的トレーニングルーム（②に併設も考えられる。）
- ②合宿所（宿泊施設）：魅力が低下した合宿所の更新、拡充



4 想定エリア

エリア	現地の状況
A	総合体育館と硬式野球場の間に位置し、利用者の動線上の土地。
B	正門付近。駐車場に隣接しており、土地も広い。

VIII-4 「オホーツク公園」における民間活力導入の基本的な考え方イメージ

1 公園の現状と課題

・オートキャンプ場からは、オホーツク海と知床連山の雄大な眺望が楽しめる。遊技広場、パークゴルフ場なども整備され家族連れで楽しめる公園。園内には、世界の北方民族の文化を展示・保存する北方民族博物館もある。

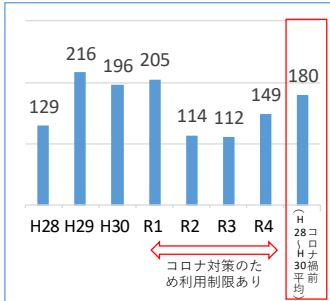
(1) 公園の概要

所在地	網走市八坂1番地
公園種別	広域公園
面積	107.4ha
主な施設	オートキャンプ場、屋内遊具、パークゴルフ場
供用開始	平成3年10月

(2) 利用目的

利用目的	屋内・屋外遊具、キャンプ、パークゴルフ
利用形態	家族連れ

(3) 年間利用者数（千人）



【公園の課題】

- ・公園周辺に食事が出来る場所がないため、来園者、キャンプ場、パークゴルフ場利用者の満足度向上のため、飲食や休憩ができる施設が必要
- ・雄大な眺望を活かすことのできる施設が必要

2 民間活力導入の基本的な考え方

【目指す公園像】 「オホーツク文化の香り高い森と湖」をコンセプトに整備された観光滞在型広域公園

アウトドアライフに対するニーズの高まりに対応した質の高い宿泊施設を備えたオートキャンプ場を中心に、遊技広場やパークゴルフが配置されており、その利用者が食事や簡単な買物ができる施設の導入を検討する。

【求める機能】

- ①イートイン機能が付属したコンビニエンスストア等
- ②雄大な眺望を活かした施設

【民間活力導入時の留意点】

- ・園内既存施設（売店）との機能分担が必要である。
- ・オートキャンプ場は、4月下旬～10月中旬の営業となっている。

3 民間活力導入による対応とイメージ

事業イメージ（案）

- ①飲食機能：来園者、キャンプ場利用者及び一般利用者が食事や飲食物を買う事ができる、イートイン機能が付属したコンビニエンスストア等
- ②温浴施設：当該施設を訪れることが目的となるような施設



4 想定エリア

エリア	現地の状況
A	道道に接しており、公園利用者以外の利用も期待できる。キャンプ場に近い。
B	近くに通年使用できる屋内遊技場があるが、自動販売機しかない。